家をつくるなら、近くの山の木で #75

北海道・秋田・山形・岡山・徳島・福岡・熊本・鹿児島

地域に寄り添い 人々の求めに応えるために、公共の木造住宅を建てる。

官と民が創意工夫をこらし、それぞれの地域において
より健やかで豊かな暮らしを願う人々のために家を建てる。
掲げた目的は多岐にわたる。
移住・定住促進、子育て支援、地域交流、災害復興、
経済支援、地域材振興、伝統構法の伝承、職人育成。
そしてなにより、皆が安心して生活を組み立てるために。

文・平山友子

1

3

2

4

1　多様性を重視し、公営住宅法の適用外で町が建てた集合住宅。植栽の施工はワークショップで行った。
2　びおソーラーに加え、庭先に広葉樹を植え、1階南側の床面で冬場の太陽熱を蓄えるといった工夫で、自然の力による快適さを保つ。
3　子どもたちはこの集合住宅できょうだいのように育つ。
4　外壁にも地場産のスギを使用。温かで親しみやすい外観。手を加えながら100年以上使用することを目指す。(撮影:2、3、4　生津勝隆)

関わりの中からコミュニティを創る

定住促進

徳島県
大埜地の集合住宅

木の家に住むのは手がかかるけれど、かければかけるほどいい家になります。同じように、他人と関わることは面倒でも、人と一緒に何かをすれば想定を超えた結果が生まれます。集まって住むと、自分の世界の外側に出る喜びを見出せるでしょう。ライフステージに応じて住み替えながら新しい関係をつくっていくことを楽しむ人たちがいて、それを見てまた人が集まる。そうやって地域はますますおもしろくなるのだと思います。(神山つなぐ公社理事　西村佳哲・談)

神山町は徳島県東部の中山間地域に位置する。その中心部に建つ町営の「大埜地(おのじ)の集合住宅」は、入居者が暮らす「大埜地住宅」と、広場や文化施設からなる「鮎喰川コモン」で構成されている。20戸の集合住宅は子育て家族向けを中心に、単身者向けユニットやバリアフリー仕様の住戸もあり、多様な人が集まって暮らすことを想定している。鮎喰川コモンは「まちのリビング」を目指してつくられた。図書館のない町で多世代の人が本に親しめる読書スペースや、親子でくつろげる小上がり、勉強や作業ができるコーナーなどがある。

この町のプロジェクトは、一般社団法人神山つなぐ公社のサポートを得て進められた。目的のひとつは若者の定住促進。これには町内からの転出抑制の意図もある。また、町域が広く人口密度が低いため、子どもたちは学校から帰ると近所に遊び相手がいないという状況がある。子どもを通じた新しい近所関係をつくり出すことも計画意図のひとつだった。さらに、地域材振興と地域内の経済循環も目的としている。建物に使用された木材は鮎喰川流域で育ったスギ、ヒノキだ。このプロジェクトを機に「町産材認証制度」も整備された。施工したのは地域の工務店。全体を4期工事に分け、資金規模の小さな町内の工務店も入札に参加しやすくした。大工が手刻みで建て、外壁やベランダなど木材で対応できる部分にはできるだけ木材を使用している。

神山は山あいの土地で冬は寒く、この集合住宅は沢筋に建っているため湿度が高い。温熱環境を改善するため、屋根面で集めた太陽の熱を床下に送って足元を暖める「びおソーラー」を導入した。室内の乾燥にも役立っている。また、町の森林資源をエネルギー源とし、木質バイオマスボイラーで沸かした熱湯を各戸に循環させている。地域の実情に合った良好な住環境に支えられ、コミュニティが育まれている。

DATA
名称・大埜地の集合住宅／所在地・徳島県名西郡神山町／竣工・2021年2月（緑地を含めた全体の竣工は2021年3月）／戸数・20戸／建主・神山町／設計・神山町のあす環境デザイン共同企業体（ランドスケープ：田瀬理夫《プランタゴ》＋鎌田あきこ《ユニットタネ》 建築：山田貴宏《ビオフォルム環境デザイン室》／施工・町内の工務店複数／形態・テラスハウス、メゾネット・フラット混在／建設目的・若者定住促進、地域材振興、子どもが育つ環境づくり／使用対象・高校生以下の子どもと同居している世帯、年上の者が50歳未満の夫婦、40歳未満の単身者で、入居者同士で円満に生活が可能な者